

# 幸せな木造校舎

〈思い出の潟分校・仙北市〉



【所在地】仙北市田沢湖潟一の渡226  
 【電話】0187-43-0766  
 【休館日】毎週水曜日  
 ※維持協力金／1人200円  
 ※田沢湖周回道路「上田子の木」バス停近くに案内板あり

少子高齢化が叫ばれて久しいが、その象徴的な事柄が学校の統廃合だろう。地域の子どもの数が激減しているのだ。まだ新しいように見える鉄筋コンクリートの校舎が廃校になるケースもある。校舎の転用策を模索するにしても、そもそも地域の人口が減っているのだから、そのような立派な施設は維持するだけでも大変だろう。

田沢湖畔、旧田沢湖町立生保内小学校潟分校は、大正12年に現在の地に移転新築された。ずいぶんと集落の奥まったところにあるが、2つの集落のちようと中間地点に建てたのだという。そういうエピソードもほほえましい。

昭和に入ると児童数も増え、戦後は3学級で複式授業が行われていたが、ご多分に漏れず児童数の減少で昭和49年3月をもって廃校。しかし、多くの廃校舎がただ朽ちるのを待つばかりになると違って、潟分校は地元の人たちの熱意で修復保存の方針が採られた。

現在は「思い出の潟分校」の名で、各種イベントに利用されるほかスタッフ1人が常駐して通年で内部を見学させている。その管理運営は地元集落有志による保存会が行っている。

ここまで地元の人たちに愛されたら木造校舎も本望というもの。

見学の際には維持協力金を求められるが、それでも採算の取れるものではないだろう。採算性を後回しにし、行政の補助金などにも頼らず、真冬でもストーブをつけて訪れる人を待っている…、それを知るとなおさら、心にはっこりとしたものを覚える。

今すぐ出かけてもいいし、暖かくなつてから出かけて校庭の満開の桜の下でおにぎりなどおぼるのも、楽しい休日の過ごし方ではないだろうか。

(文／已戸春策・イラスト／堀千里)